

平成 27 年度「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」(共同利用型)成果報告書「『文学新聞』でのアジア・アフリカ文学の評価：プラトーノフ再評価の文脈として」

古川哲

調査の趣旨

本調査は、申請者が平成 25 年度に北海道大学附属図書館で行った調査の継続として実施した。具体的には、アジア・アフリカ地域の文学への言及に注目しつつ、「文学新聞」の閲覧を 1960～1964 年、および 1974～1978 年の発行分について行った。上記のような年代を設定したのは、上にあげた年代の「文学新聞」が北海道大学附属図書館に所蔵されていることを、前回の調査時に確認できていたためである。

調査の日程

第 1 回：平成 28 年 2 月 8 日（月）～10 日（水）

第 2 回：平成 28 年 3 月 8 日（火）～10 日（木）

調査の内容

第 1 回の調査では、本館・東書庫 5 階・スラブ新聞のコーナーに配架されている、『文学新聞 Литературная газета』（ソビエト作家同盟の機関誌）のうち、1960 年刊行分の閲覧・複写を行った。

また、あらかじめ予定していた資料以外に、以下の資料の閲覧・複写を行った。

- ・ Гюзальян, Л. Т., М. М. Дьяконов. Рукописи Шах-Намэ в Ленинградских собраниях. Ленинград, 1934. (イランの叙事詩『シャー・ナーメ』の手稿の目録)

第 2 回の調査では、本館・東書庫 5 階・スラブ新聞のコーナーに配架されている、『文学新聞 Литературная газета』（ソビエト作家同盟の機関誌）のうち、1961-1964 年および 1974-1978 年刊行分の閲覧・複写を行った。

ごく素描的に、今回の調査で得られた成果に関して調査の趣旨に照らして述べたい。

『文学新聞』では、1960 年から 1964 年にかけての紙面においては、アジア・アフリカ地域の記事のなかでは、アルジェリアに関する記事が突出して多かった。ただし、文学に関する注目というよりはフランスからの独立の経緯についての記事が多くを占めていた。また、中央アジアに関する記事は顕著とは言えなかった。

さらに 1974 年から 1978 年にかけての紙面においては、1960 年台前半の紙面について上述したような、特定の地域や事象に関する顕著な注目は観察できなかった。そのため、この時期の紙面の性格や特徴に関してはより精密な検討を期したい。